

SKタイカコート

耐火塗料

耐火被覆材は超薄膜化へ

I N D E X

I N D E X	1
S Kタイカコートの特長	2
認定番号	3
耐火性能、加熱発泡機構	4
製品特長	5
ケース別提案	7
施工実績	9
施工環境区分	19
施工仕様例	20
施工手順(屋内仕様例)、ケース別施工仕様例	21
仕上がりパターン例、施工上の注意	22
他部材との取合ディテール集	23
標準施工仕様例	25
材料構成、適用上塗材一覧	27
取扱説明書(屋外環境)	27
鋼材寸法と認定膜厚表	28

SKタイカコートの特長

薄膜

意匠性

耐久性

防水仕様

プレコート施工

施行令70条
(柱の防火被覆)

わずか数mm厚の塗膜が、火災時には20～30倍に発泡して
断熱層を形成し、鉄骨の倒壊を防ぎます。

耐火塗料「SKタイカコート」は、従来の耐火被覆材では不可能であった鉄骨自体のフォームを活かす仕上げを可能にしました。
わずか数mm厚の塗膜で30分の防火性能及び、1時間・2時間の耐火性能を発揮できる画期的な耐火被覆材です。

SKタイカコートは、下塗り塗料、主材、上塗り塗料で構成され、下塗り塗料は防錆性を付与し、主材は火災時に20～30倍に発泡して炭化層を形成することで火災から鋼材を守り、上塗り塗料は意匠性、耐久性を付与するものです。上塗り塗料を選定し、更に中塗り塗料や防水層を加えることで屋外環境への適用も可能になります。

[建築基準法第2条第七号、同法施行令第107条(耐火構造)]

耐火時間	部 位	認定番号	適用鋼材		
			主材膜厚 (mm)	断面形状	鋼材サイズ (mm)
1時間	梁	FP060BM-9419	1.0~2.50	—	P28~30参照
	柱	FP060CN-9472	0.75~4.50		
2時間	鋼管柱	FP120CN-0195	3.0	□	□350×350×22以上
				○	φ350×27.3、φ376.8×25、φ390.4×24、φ421.7×22以上※ ¹
	鋼管柱	FP120CN-0224	4.5	□	□300×300×9以上
				○	φ300×11.4、φ305.7×11.1、φ308.3×11、φ327.8×10.3、φ337×10、φ353.7×9.5、φ360.9×9.3、φ372.3×9以上※ ¹
	鉄骨柱	FP120CN-0248	4.0	H	H300×300×10×15以上
	梁	FP120BM-0276	3.7	H	H400×200×8×13以上

[建築基準法施行令第70条(柱の防火被覆)]

建築基準法(平成12年6月改正)施行令第70条に基づく認定取得

建築基準法が改訂され、防火規定が性能規定化されることに伴い、今まで不明確であった施行令の基準がより明確になりました。

防火時間	部 位	認定番号	適用鋼材		
			主材膜厚 (mm)	断面形状	鋼材サイズ (mm)
30分	鋼管柱	CC-0001	0.5	□	□300×300×12以上
				○	φ355.6×12以上
	鉄骨柱	CC-0002	0.5	H	H300×300×10×15以上

※¹: 角形鋼管の断面積以上かつ、外径以上、厚み以上が条件となります。詳細については、P28~P30の認定膜厚表をご参照ください。

注意：認定条件を十分ご確認の上、ご採用ください。

■新建築基準法施行令第70条(抜粋)

「地階を除く階数が3階以上の建築物(法第2条第9号の2イに掲げる基準に適合する建築物及び同条第9号の3のイに該当する建築物を除く)にあっては、1の柱のみの火熱による耐力の低下によって建築物全体が容易に倒壊する恐れがある場合として国土交通大臣が定める場合においては、当該柱の構造は、通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後30分間構造耐力上支障のある変形・溶融・破壊その他の損傷を生じないものとして国土交通大臣が定めた構造方法(①)を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたもの(②)としなければならない。」

告示 平12建告第1356号 抜粋

①国土交通大臣が定めた構造方法

1. 厚さが12ミリメートル以上の石膏ボードで覆ったもの
2. 厚さが12ミリメートル以上の窯業系サイディングで覆ったもの
3. 厚さが12ミリメートル以上の繊維強化セメント板で覆ったもの
4. 厚さが9ミリメートル以上の石膏ボードに厚さが9ミリメートル以上の石膏ボード又は難燃合板を重ねて覆ったもの
5. 厚さが15ミリメートル以上の鉄網モルタル塗りで覆ったもの

②国土交通大臣の認定を受けたもの(SKタイカコート(0.5mm))

このように特殊建築物ではなく、防火・準防火地域でもない場所の建築物は、耐火建築物・準耐火建築物とする必要がなく、鉄骨部材に耐火被覆を施す必要がありません。施行令第70条は、そのような建物に対して適用されるものです(但し、適用される建築物は、3階建て以上の建物に限ります)。旧建築基準法施行令第70条で用いられていた1時間耐火認定材料は、新建築基準法では左記告示平12建告第1356号に定められたもの以外、適用できません。

耐火性能

S K タイカコートは、発泡終了後の炭化層の割れがなく、安定した耐火性能を示します。



試験前



試験後

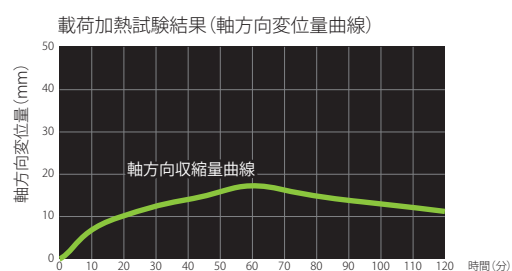
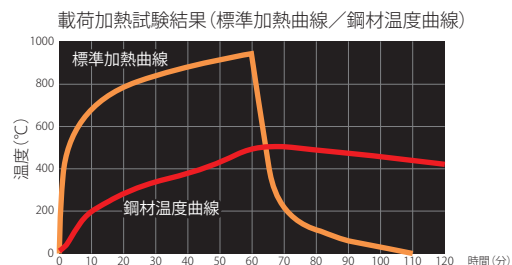
●試験規格

(一財) 日本建築総合試験所、建築評定センター制定
「防耐火性能試験・評価業務方法書」

4.1耐火性能試験・評価方法

耐火構造(法第2条第七号)

試験方法: 載荷加熱試験、試験所: (一財) 日本建築総合試験所
鋼材: 300×300×9mm、被覆厚: 2.0mm



加熱発泡機構

S K タイカコートの外観は、通常時は一般塗装仕上げと同様です。火災時に熱を受けると、250℃前後で発泡を開始し、20～30倍に膨張して炭化層を形成します。その炭化層が断熱層となり鉄骨の温度上昇を抑えます。



発泡前



発泡開始



発泡途中

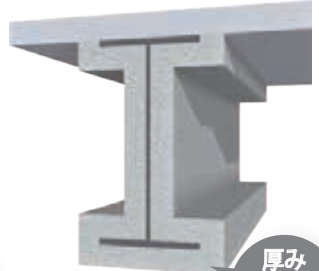


発泡完了

Features 1 非常に薄い被覆厚

S K タイカコートは、非常に薄い被覆厚のため屋内・準屋外・屋外すべてにおいて、鋼管の外径とほとんど変わらない仕上がりです。そのため、従来の耐火被覆材では不可能であった鉄骨自体のフォルムを活かす仕上がりが可能です。

[鉄骨梁／耐火被覆材厚み比較(サイズ：H 400×200×8×13の場合)]

	S K タイカコート	湿式系 (セラタイカ 2 号)	半乾式系 (ロックウール)
1 時間耐火	 厚み僅か 1.5mm!!	 厚み 10mm 以上	 厚み 25mm 以上
2 時間耐火	 厚み僅か 3.7mm!!	 厚み 20mm 以上	 厚み 45mm 以上

Features 2 優れた意匠性

S K タイカコートの仕上がりパターンは、スプレー塗り・ローラー塗りの 2 パターンです。加えて、パテ処理を行うことで、意匠性の高い良好な仕上がりとなります。また、上塗り塗料で自由な色彩に仕上げることもできます。

人目につくエントランスなどに最適



柱をより細くすっきり仕上げる事が可能なため、人目につく場所に最適です。

配色仕上がりも可能



建物イメージに合わせた着色が可能のため、柱や梁をデザインの一部として活かす事が可能です。

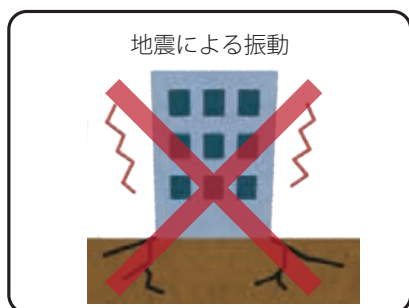
平滑に近い仕上がりパターン



パテ処理仕上げ

Features 3 耐久性

SKタイカコートは、塗料系であるため、地震や乗り物などによる振動が起こった場合も、剥離や脱落の発生を低減できます。また、万が一不具合が生じた場合も、メンテナンスが容易です。



Features 4 完全外部への施工が可能

SKタイカコートは、耐火被覆材として珍しい、完全外部への施工が可能です。

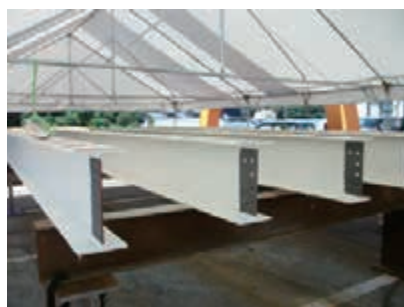
Features 5 工場プレコート、現場ヤード施工が可能

SKタイカコートは、現場施工だけでなく、工場プレコート工法及び、現場ヤード施工が可能です。工期短縮につながります。

工場プレコート施工

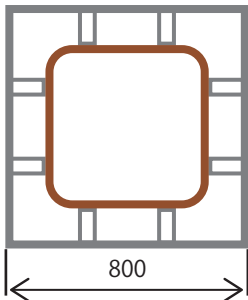
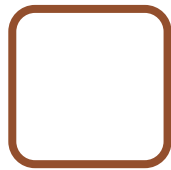


現場ヤード施工



Features 6 施行令 70 条 (柱の防火被覆)

告示の石膏ボードが、わずか0.5mmのSKタイカコートで代替できます。

製品	石膏ボード (12 mm以上)	耐火塗料 (SK タイカコート)
認定	平成 12 年建告第 1356 号	CC-0001 (大臣認定)
構成	下塗り+軽量鉄骨下地+石膏ボード+上塗り	下塗り+耐火塗料主材+上塗り
断面		 □500×500×19



CASE 1 エントランス柱の施工

S K タイカコートの場合



鉄骨の素材感を活かす仕上げを要望されることが多いため、薄膜である耐火被覆材のS K タイカコートは有効です。

CASE 2 駐車場及びスロープ、ランプウェイの鉄骨梁・柱の施工

けい酸カルシウム板の場合

振動や衝突により、脱落や破損の恐れがあります。



S K タイカコートの場合

塗膜が硬質なため、振動や衝撃にも強く、耐火被覆部の脱落や破損の心配がありません。



CASE 3 意匠性を重視したスケルトン天井梁の施工

S K タイカコートの場合

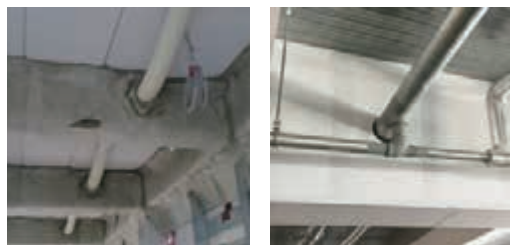


近年増加しているスケルトン天井においても、意匠性を損ねることなく施工ができ、開放的な空間の演出に最適です。

CASE 4 天井高及びスリーブ貫通部のスペース確保

けい酸カルシウム板や巻付耐火被覆の場合

被覆材が厚く、スリーブ貫通部の有効径が小さくなってしまいます。有効径を確保しようとすると、梁せいが大きくなり、鉄骨の重量増により、コストUPにつながります。



S K タイカコートの場合

薄膜なのでスリーブ貫通部の有効径を狭めることなく施工ができ、見た目もすっきりときれいな仕上がりです。



CASE 5 物流施設や倉庫の鉄骨柱の施工

S K タイカコートの場合



※柱マーキングのイメージ画像です。



物流施設や倉庫では、在庫管理などの目的で柱にマーキングする場合があります。そのような場合でも、SK タイカコートは、仕上塗料でマーキング処理や、シート材を貼付けすることで、柱マーキングが可能です。

また、物流施設や倉庫以外の施設でも、建物の案内柱として、仕上塗料の上にペイントすることも可能です。

改修

CASE 1 プラント施設の支柱の施工

コンクリートブロックや、モルタルの場合

厚膜になってしまう点や、耐候性や防水性が低い点、メンテナンスが面倒など、様々な問題があります。



S K タイカコートの場合

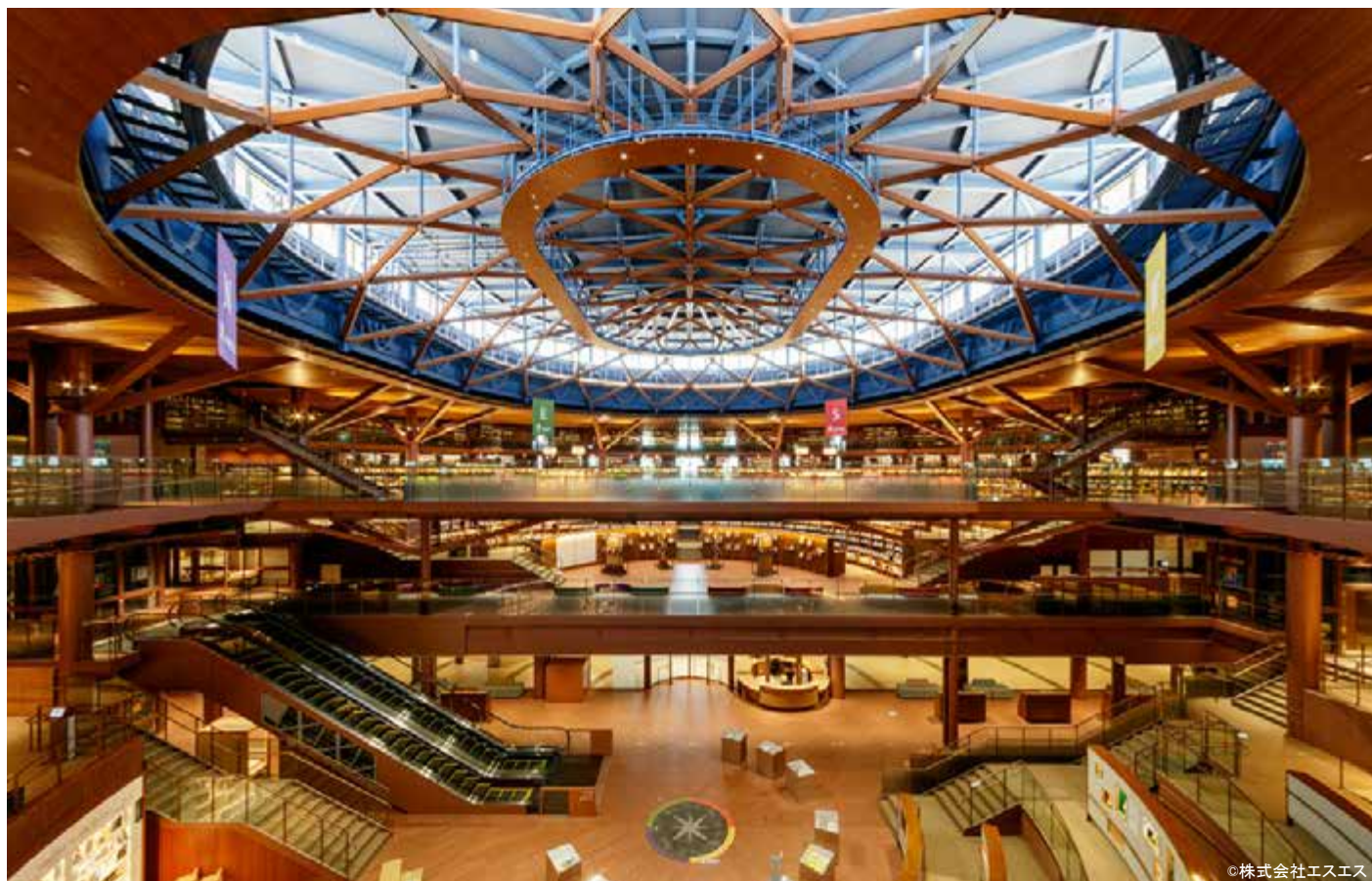
コンクリートやモルタルに比べ、薄膜かつ施工性に優れている点、耐候性が高い点、メンテナンスが容易な点などのメリットがあります。





麻布台ヒルズ 森 JP タワー（東京都） 施工部位：屋外の梁（白・グレー）

施主：虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合 設計：森ビル株式会社、株式会社日本設計、清水建設株式会社
 <デザイナー>外装：Pelli Clarke & Partners、低層部：Heatherwick Studio、オフィスエントランス：Yabu Pushelberg、住宅インテリア：Yabu Pushelberg、
 商業空間：A.N.D.、商業空間（エントランス）：藤本壮介建築設計事務所 施工：清水建設株式会社



©株式会社エスエス



©株式会社エスエス



石川県立図書館（石川県） 施工部位：屋内・準屋外の柱、屋内の方杖（ブラウン）

施主：石川県 設計：株式会社環境デザイン研究所 施工：清水建設・豊蔵組・表組・寺井建設・双建JV



加和太建設株式会社 本社（静岡県） 施工部位：屋内外の柱（グレー）

施主：加和太建設株式会社 設計：西沢立衛建築設計事務所 施工：加和太建設株式会社



高槻城公園芸術文化劇場 南館（大阪府） 施工部位：屋内の柱（チャコールグレー）

施主：高槻市 設計：株式会社日建設計 施工：株式会社大林組



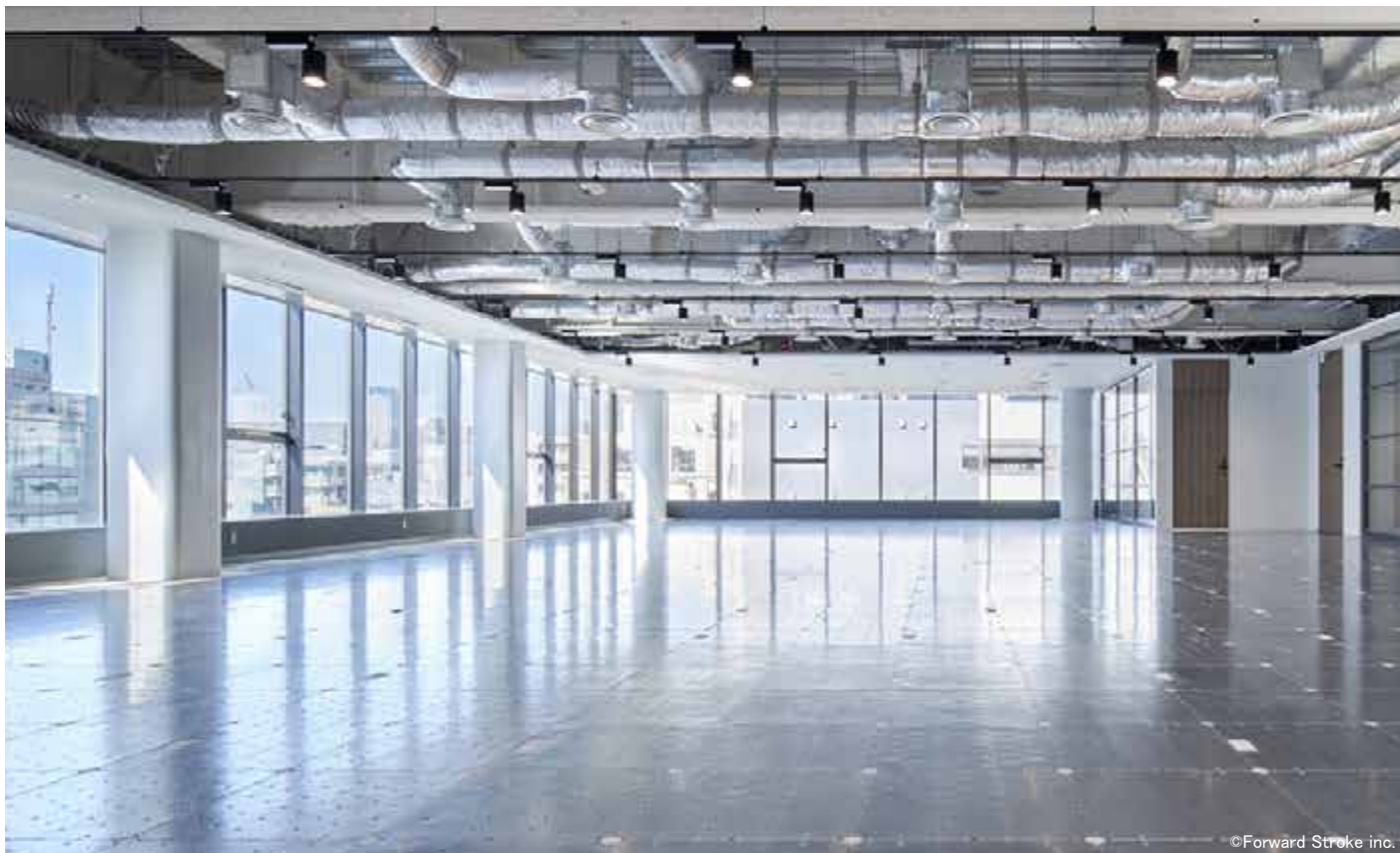
名古屋造形大学 名城公園キャンパス（愛知県） 施工部位：屋内・準屋外のブレース（ホワイト）

施主：学校法人同朋学園 設計：株式会社山本理顕設計工場 施工：株式会社大林組名古屋支店



白井屋ホテル（群馬県） 施工部位：屋内の梁（ホワイト）

施主：合同会社マーズ 設計：藤本壮介建築設計事務所 施工：冬木工業株式会社

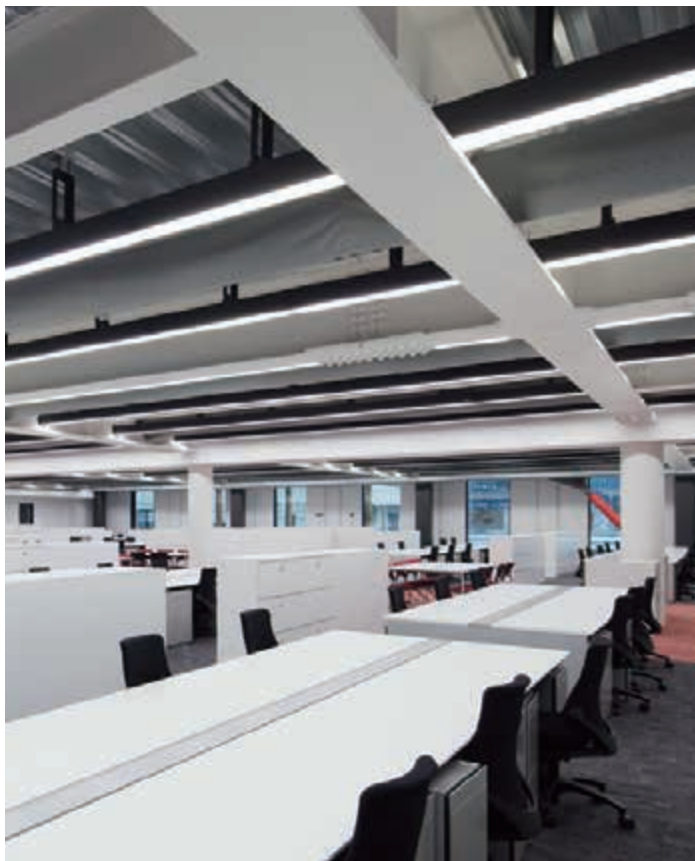


©Forward Stroke inc.

人形町 PREX（東京都） 施工部位：屋内の柱（ホワイト）※屋内の梁（ホワイト）はセラタイカ 2 号*

施主：住友商事株式会社 設計：株式会社熊谷組 施工：株式会社熊谷組

*セラタイカ 2 号については別途専用パンフレットをご参照ください。



岡部株式会社本社ビル（東京都） 施工部位：屋内の梁（ホワイト）

施主：岡部株式会社 設計：株式会社日建設計 施工：日鉄エンジニアリング株式会社



©Kawasumi-Kobayashi Kenji Photograph Office



©Kawasumi-Kobayashi Kenji Photograph Office



©Kawasumi-Kobayashi Kenji Photograph Office

鹿沼市役所 新庁舎（栃木県） 施工部位：屋内の梁・柱（チャコールグレー）、屋内の梁（ホワイト）

施主：鹿沼市 設計：株式会社佐藤総合計画 施工：大成建設株式会社



旭川市総合庁舎（北海道） 施工部位：屋内・準屋外の柱、屋内の梁（チャコールグレー）

施主：旭川市 設計：久米・柴滝・中原共同企業体 施工：新谷・荒井・高・田中・タカハタ共同企業体、橋本川島・盛永・廣野・吉宮共同企業体



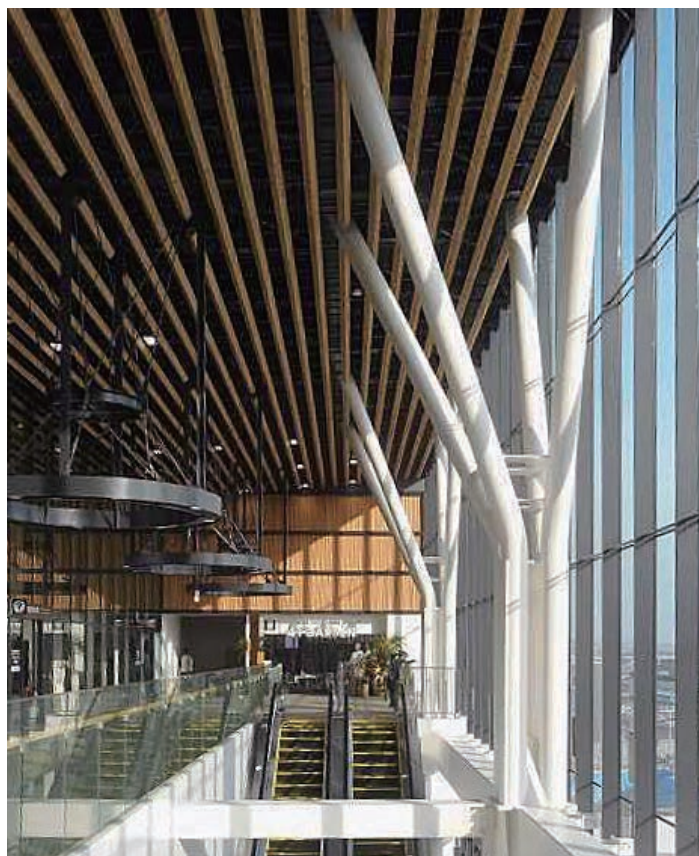
横浜スタジアム：増築・改修（神奈川県） 施工部位：準屋外の梁・柱（ホワイト）

施主：株式会社横浜スタジアム 設計：清水建設株式会社 施工：清水建設株式会社



仙台うみの杜水族館（宮城県） 施工部位：屋内・準屋外の丸柱、準屋外の梁・角柱（ホワイト）

施主：仙台水族館開発株式会社 設計：株式会社大建設 施工：大成・橋本店特定建設工事共同企業体



JR 新函館北斗駅（北海道） 施工部位：屋内の柱（ホワイト）

施主：北海道旅客鉄道株式会社 設計：株式会社交建設計 施工：三井住友建設・アイサワ工業・森川組共同企業体



サンエー那覇メインプレイス（沖縄県） 施工部位：準屋外の梁、角柱（クリーム）

施主：株式会社サンエー 設計：株式会社国建 施工：株式会社竹中工務店



D P L 川崎夜光（神奈川県） 施工部位：ランプウェイの角柱（レッド）

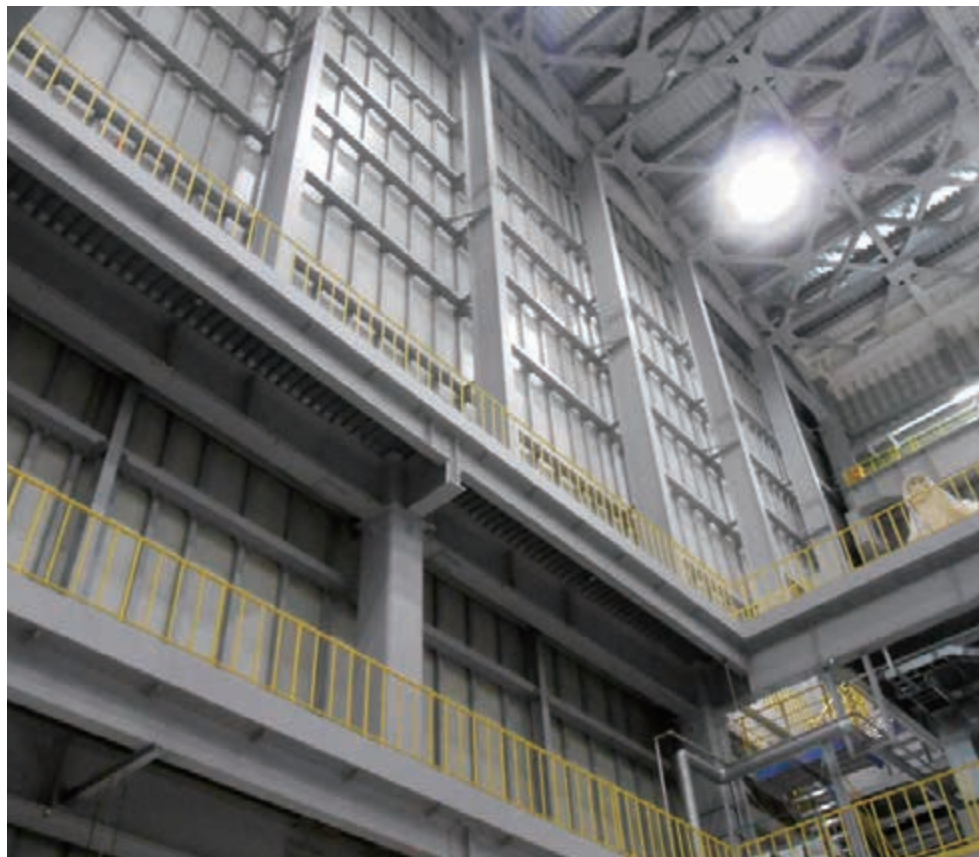
施主：大和ハウス工業株式会社東京支店 設計：大和ハウス工業株式会社東京建築一級建築士事務所 施工：大和ハウス工業株式会社東京支店



プロロジスパーク吉見（埼玉県） 施工部位：車路・スロープの梁（グレー）

施主：プロロジス 設計：清水建設株式会社 施工：清水建設株式会社

施工実績（柱の防火被覆）



石狩湾新港発電所 1 号機新設工事のうち発電所本館他新築工事（北海道） 施工部位：屋内の柱（グレー）

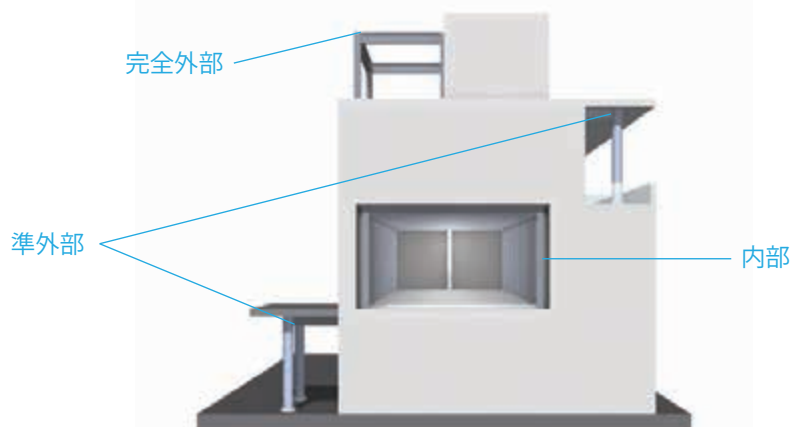
発注者：北海道電力株式会社 設計：ADMINISTRATE ARCT. 施工：清水・前田・西松・中山共同企業体

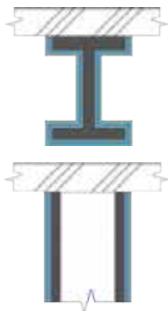
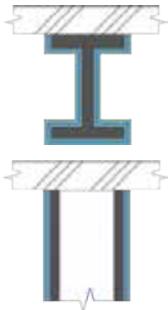
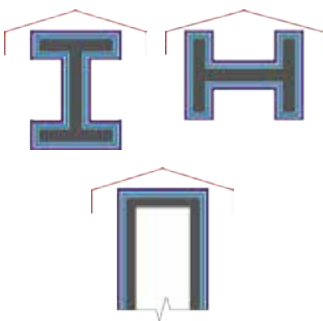


北海道いすゞ自動車株式会社新社屋（北海道） 施工部位：準屋外の柱（ホワイト）、屋内の柱（グレー）

施主：北海道いすゞ自動車株式会社 設計：株式会社構造デザイン設計 施工：東急建設・泰進建設 JV

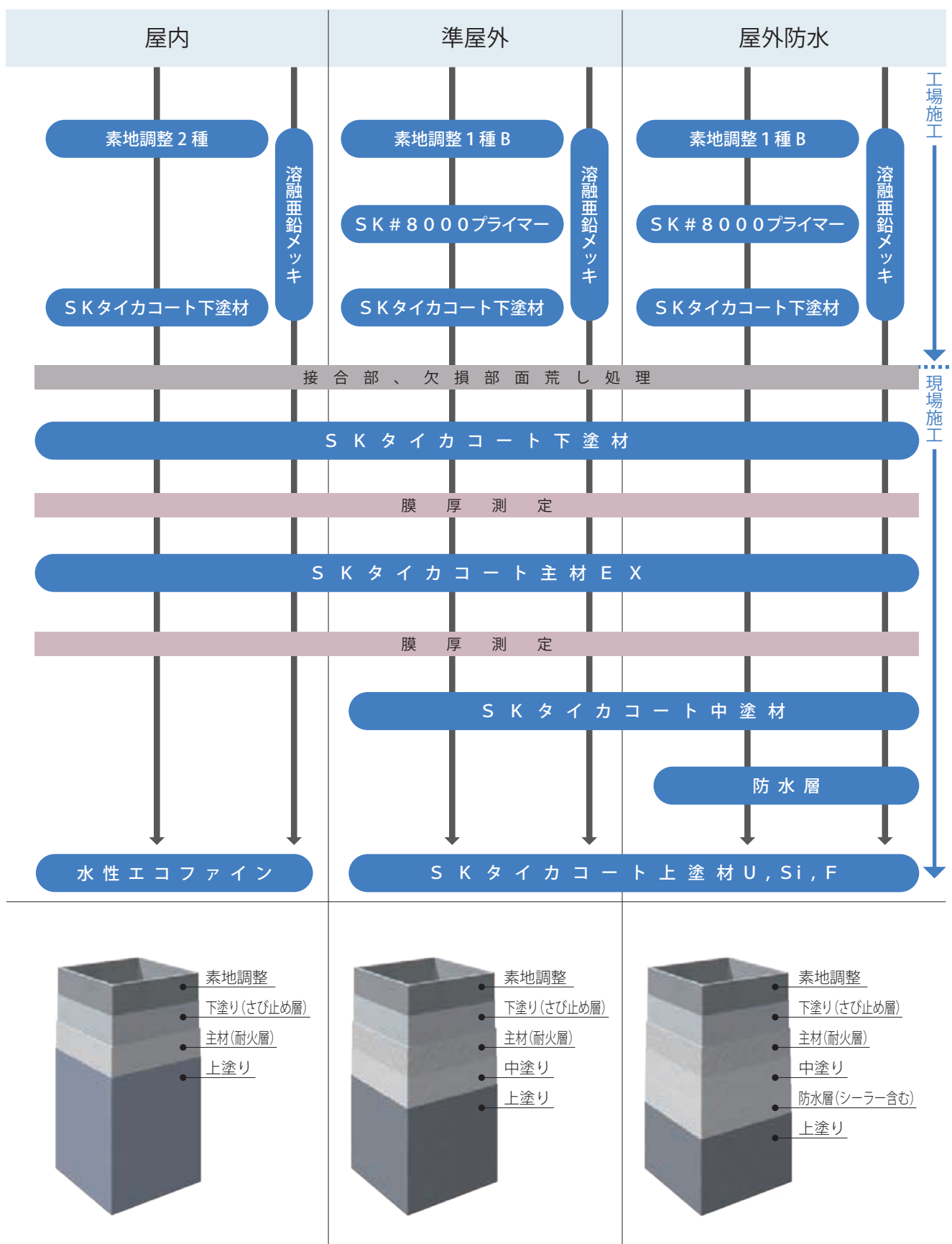
施工環境区分



適用部位(仕様)	適用部位の条件	納まり図	
内部 (屋内)	建物引渡し後、外気や雨や雪がかからない完全閉鎖空間を内部(屋内)と定めます。 		
準外部 (準屋外)	建物引渡し後は外部環境に属しますが、天端より雨や雪がかからないが、上下でスラブや底があり区画されている(外的条件により外気や吹き降りで雨や雪がかかる)部位を準外部(準屋外)と定めます。 スラブや底の先端部と梁・柱の距離によっては、水切り等の取付が必要です。 	スラブ・屋根付 	水切り等の取合い部 (スラブ・屋根付) 
完全外部 (屋外防水)	建物引渡し後は完全外部環境であり、天端に雨や雪がかかる部位を完全外部(屋外防水)と定めます。 	完全外部 	豪雪地域 

- 注) ・S Kタイカコートは、全て弊社施工となりますので、施工の詳細は、別途施工計画書をご参照ください。
 ・クーリングタワーの影響を受ける部位は、メンテナンスが困難なため、パネル囲い仕様としてください。
 ・耐風梁(ウェブが水平となる構造)は、笠木仕様としてください。
 ・耐火塗料施工面には、クリップや後付け金物を設置しないようにしてください。塗膜が損傷し、早期劣化の原因となります。設置予定がある場合は、耐火塗料施工前に、設置用のピースを部材に溶接してください。万一、耐火塗料を施工後、クリップを設置する場合は、塗膜に損傷を与えないように、ゴムシート等を挟んでください。詳細については、P23～24をご参照ください。
 ・雨樋扱いとなるような、降雨の際に水通りになる部位は、ご採用を避けてください。
 ・完全外部(屋外防水)の場合、笠木や水切りの設置を推奨します。
 ・豪雪地域では、完全外部(屋外防水)の場合でも、笠木や水切りの設置が必要となります。

施工仕様例



施工手順（屋内仕様例）

- ① 下塗材を塗付 → ② 下塗材の膜厚検査 → ③ 主材を塗付 →



ローラー塗りまたはエアレススプレー塗り

- ④ 主材の膜厚検査 → ⑤ 上塗材を塗付 → ⑥ 完成

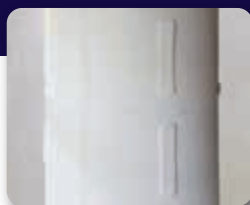


ケース別施工仕様例

〔エレクションピース／シーム跡がある場合〕

下地なりの施工で仕上げる可能性があります。

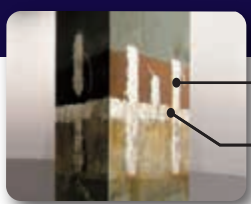
- ① 極力、溶断研磨処理を行う → ② 下塗材施工後、SKタイカコート
コートを施工する → ③ 上塗材を施工する



〔エレクションピース／シーム跡があり、平滑仕上げをご要望の場合〕

エレクションピースや溶接ビードなどは、溶断研磨処理してください。

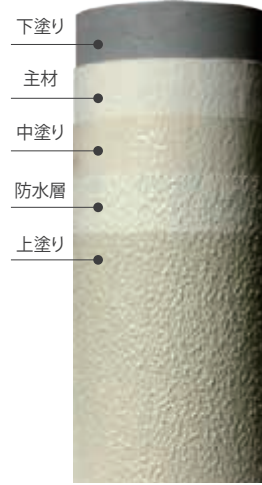
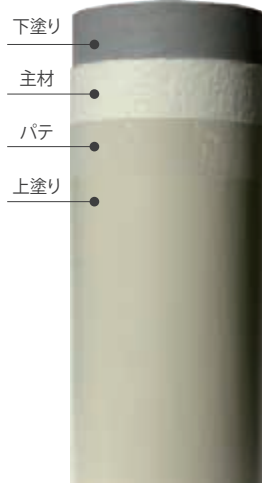
- ① 溶断研磨処理を行う → ② 下塗材施工後、SKタイカコート
を施工し、パデで不陸調整する → ③ 上塗材を施工する



エレクションピース
切断研磨跡
溶接ビードの研磨跡



仕上がりパターン例

ローラー塗り (屋内、準屋外仕様)	エアレススプレー塗り (屋内、準屋外仕様)	ローラー塗り (屋外防水仕様)	ローラー塗りの後パテ処理 (屋内、準屋外仕様)
 ※画像は屋内仕様です。	 ※画像は屋内仕様です。		 ※画像は屋内仕様です。

施工上の注意

1. 気象条件

- 外部で施工する場合、強風のときは施工を中止します。風速5m/sec. 以上の場合、パターンが不均一になったり、塗膜の割れ、飛散による周辺環境の汚染などが生じやすくなります。
- 主材の施工中及び上塗りを施工するまでの期間は雨水などが塗膜にかからないようにしてください。また、上塗り終了後、最低24時間は降雨を避けてください。
- 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温5℃以下、湿度85%以上での施工は原則的に行いません。気温5℃以下で施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により、雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。夏期・冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを必要とします。詳しくは別途施工計画書に記載しております。
- 風が強いほど、また施工箇所が地上から高くなるほど被塗面の温度が下がりますので、注意してください。

2. 足場

- 塗装作業の安全性、仕上塗材の均一性を向上させるため、良い足場を選定してください。機械重量、材料重量、作業員数などを考え、強固な素材で足場を設置してください。
- 足場と塗装面の距離は50cm程度とし、足場むらの起こらないように注意して設置してください。

3. 塗装器具、機械(推奨)

- S K タイカコート主材 E X の塗装機械

1) エアレスポンプ：駆動源OHVガソリンエンジン6.0PS

最大圧力18MPa(184kgf/cm²)

エアレスガン：チップ口径0.66mm(0.026inch)

2) エアレスポンプ：駆動源AC100V・1.5PS(1100W)

最大圧力18MPa(184kgf/cm²)

エアレスガン：チップ口径0.66mm(0.026inch)

最大吐出量6.0ℓ/分

ガンフィルター40メッシュ

最大吐出量4.3ℓ/分

ガンフィルター40メッシュ

- 膜厚測定機器

電磁式膜厚計：乾燥塗膜の膜厚測定

4. 材料の保管

- 材料は40℃以下、5℃以上の屋内で火気の危険のない場所に保管してください。

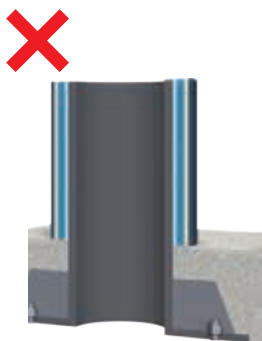
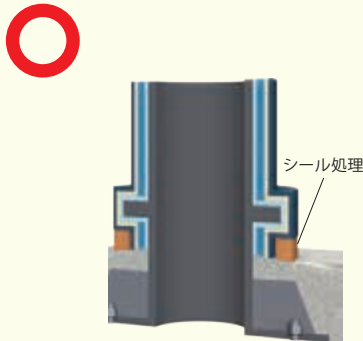
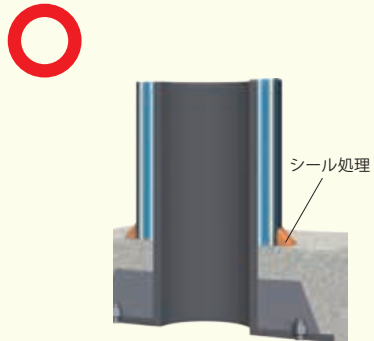


エアレスポンプ

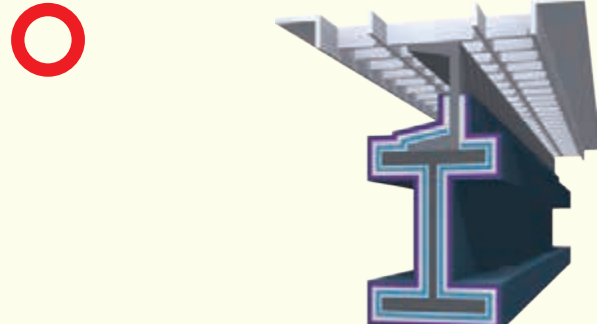
電磁式膜厚計

他部材との取合ディテール集

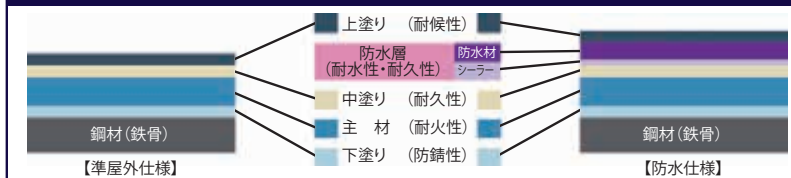
[根元処理（シール処理）]

床面に垂直方向のみ接触	根元にシール施工	根元・目地部にシール施工
 根元の小口より雨水が浸入し、膨れや剥離の原因になります。 		
柱の根元は、床面接触部に雨水が滞留しない処理とする。 		

[床面処理（グレーチングとの取合い）]

グレーチングと接触	取付金物及びグレーチングを上げ、端部取合部に中塗り・防水材・上塗りをオーバーラップ
 グレーチングなどを直接貼付すると、塗膜に傷が付き、膨れや剥離の原因になります。 	 グレーチングなどを取付金物で底上げし、端部取合部を中塗り、防水材、上塗りをオーバーラップし、主材層への雨水の浸入を防ぎます。 

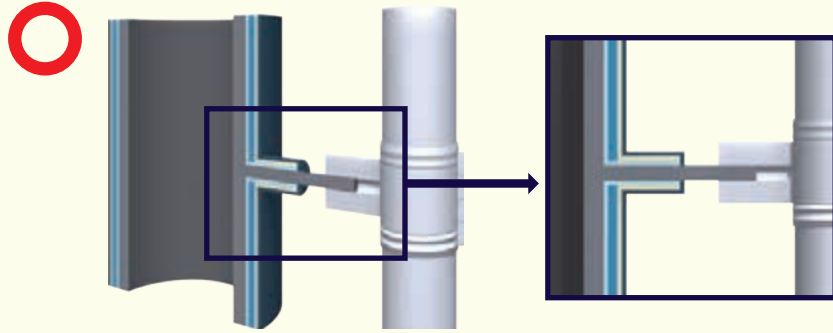
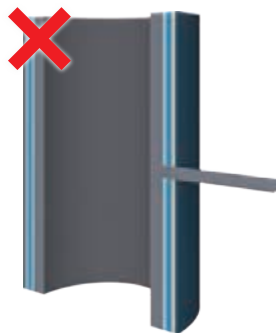
準屋外、屋外防水仕様の工程詳細



[無耐火部材処理]

耐火塗料主材と上塗り塗料が同一面

中塗り・上塗りをオーバーラップ



無耐火部材との取合い部の小口より、雨水が浸入し、膨れや剥離の原因になります。

中塗り、上塗りを無耐火部分へオーバーラップし、主材層への雨水の浸入を防ぎます。

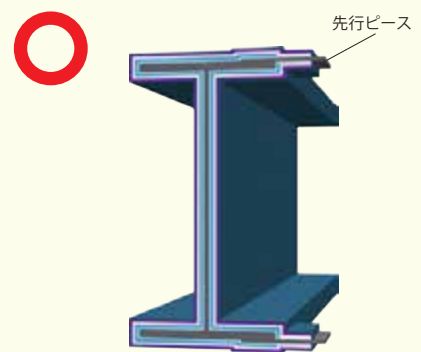
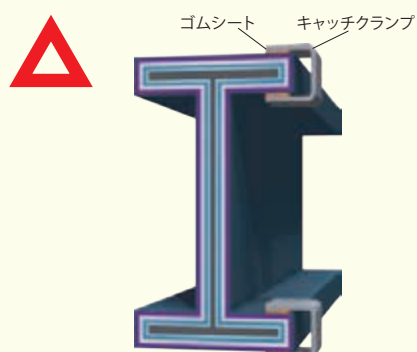


[他部材の設置方法]

キャッチクランプを直接取り付け

キャッチクランプの間にゴムシートを挟む

先行ビースをオーバーラップ



クランプなど直貼付すると、塗膜に傷が付き、膨れや剥離の原因になります。

後付でクリップを設置する場合は、塗膜に損傷を与えないように、ゴムシートなどを挟みます。



標準施工仕様例

[屋 内 仕 様]

(23℃)

工 程		使用材料	調 合 重量比	所要量 (kg/m ²)	平均膜厚 (μm)	塗回数	間隔時間 (hr)			塗装方法
							工程内	工程間	最終養生	
工場施工	素地調整	● ディスクサンダー、ワイヤーブラシ等により素地調整2種相当:ISOst-3 (SSPC-SP3) ※1まで除錆してください。特に溶接部は入念に行ってください。 ● 水分、油脂類は付着低下の原因となりますので、溶剤等で除去してください。								
	下塗り	S K タイカコート下塗材 主剤	100	0.14~0.17	40	1	—	16以上※3 30日以内	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛
		S K タイカコート下塗材 硬化剤	25							
		E H シンナー	0~30※2	—						
下地調整	● 鉄骨製作工場サイドが接合部、欠損部の素地調整、補修塗りを行ってください。 ● 工具、ウエス等により表面のごみ、汚れ、水分を除去、清掃してください。									
現場施工	下塗り	S K タイカコート下塗材 主剤	100	(0.14)	40	1	—	16以上 30日以内	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛
		S K タイカコート下塗材 硬化剤	25							
		E H シンナー	0~30※2	—						
	主材塗り	S K タイカコート主材 E X	100	膜厚による※4						
		S K タイカコート主材シンナー	0~5							
上塗り※7.12	水性エコファイン	100	0.25~0.30	—	2	2以上	—	24以上	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛	
	清水	5~15	—							

[準 屋 外 ・ 屋 外 防 水 仕 様] 工場施工 共通

(23℃)

工 程	使用材料	調 合 重量比	所要量 (kg/m ²)	平均膜厚 (μm)	塗回数	間隔時間 (hr)			塗装方法	
						工程内	工程間	最終養生		
工場施工	素地調整	●プラスト法により素地調整1種B(1種ケレン相当):ISOsa-2 1/2 (SSPC-SP10) ※8まで除錆してください。特に溶接部は入念に行ってください。 ●水分、油脂類は付着低下の原因となるため、溶剤等で除去してください。								
	下塗り①	S K #8000プライマー 主剤※9	100 (16)	0.20~0.23	20	1	—	16以上 180日以内	—	●エアレススプレー (ジンクリッチ用) ●ローラー ●刷毛
		S K #8000プライマー 硬化剤	25 (4)							
		S K #8000プライマー 亜鉛末	500 (80)							
		S K #8000プライマーシンナー	100~150※10 (16~24)	—						
	下塗り②	S K タイカコート下塗材 主剤	100	0.14~0.17	40	1	—	16以上 ※3 30日以内	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛
		S K タイカコート下塗材 硬化剤	25							
		F H シンナー	0~30※2	—						

[準 屋 外 仕 様]

(23℃)

工 程		使用材料	調 合 重量比	所要量 (kg/m ²)	平均膜厚 (μm)	塗回数	間隔時間 (hr)			塗装方法					
							工程内	工程間	最終養生						
現場施工	下地調整	● 鉄骨製作工場サイドが接合部、欠損部の素地調整、補修塗りを行ってください。 ● 工具、ウエス等により表面のごみ、汚れ、水分を除去、清掃してください。													
	下塗り	S K タイカコート下塗材 主剤	100	(0.14)	40	1	—	16以上 30日以内	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛					
		S K タイカコート下塗材 硬化剤	25												
		E H シンナー	0~30※2	—											
	主材塗り	S K タイカコート主材 E X	100	膜厚による※4							4以上※5 (16以上)	48以上※6	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛	
		S K タイカコート主材シンナー	0~5												
	中塗り	S K タイカコート中塗材 主剤	100	0.30~0.50	2	4以上	16以上 7日以内	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛						
		S K タイカコート中塗材 硬化剤	17.6												
		E H シンナー	0~15	—											
	上塗り※11.12	S K タイカコート上塗材U 主剤	100	0.24~0.30	2	3以上 7日以内	—	24以上	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛						
		S K タイカコート上塗材U 硬化剤	18.5												
		塗料用シンナー A	0~20	—											

[屋 外 防 水 仕 様]

(23℃)

工 程		使用材料	調 合 重量比	所要量 (kg/m ²)	平均膜厚 (μm)	塗回数	間隔時間 (hr)			塗装方法
							工程内	工程間	最終養生	
現場施工	下地調整	● 鉄骨製作工場サイドが接合部、欠損部の素地調整、補修塗りを行ってください。 ● 工具、ウエス等により表面のごみ、汚れ、水分を除去、清掃してください。								
	下塗り	S K タイカコート下塗材 主剤	100	(0.14)	40	1	—	16以上 30日以内	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛
		S K タイカコート下塗材 硬化剤	25							
		E H シンナー	0~30※2	—						
	主材塗り	S K タイカコート主材 E X	100	膜厚による※4			4以上※5 (16以上)	48以上※6	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛
		S K タイカコート主材シンナー	0~5							
	中塗り	S K タイカコート中塗材 主剤	100	0.15~0.25	1	—	16以上 7日以内	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛	
		S K タイカコート中塗材 硬化剤	17.6							
		E H シンナー	0~15	—						
	シーラー	水性ミラクシーラーエコホワイト	既調合	0.10~0.13	1	—	2以上	—	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛	
	防水材	レナエクセレントローラー用主材	100	1.6~2.4	2	16以上	18以上	—	●砂骨ローラー ●刷毛	
		清水	2~3	—						
	上塗り※11.12	S K タイカコート上塗材 U 主剤	100	0.24~0.30	2	3以上 7日以内	—	24以上	●エアレススプレー ●ローラー ●刷毛	
		S K タイカコート上塗材 U 硬化剤	18.5							
		塗料用シンナー A	0~20	—						

[溶融亜鉛メッキの場合]

(23℃)

工 程		使用材料	調 合 重量比	所要量 (kg/m ²)	平均膜厚 (μm)	塗回数	間隔時間 (hr)			塗装方法
							工程内	工程間	最終養生	
現場 施工	下地調整	● 溶融亜鉛メッキの仕上がり不良及び傷がついた場合でも、安易に補修材 (亜鉛系・アルミ系) 等で補修すると、補修材の付着力が弱く剥離が生じるため、補修を行わないでください。 ● 剥離が生じるため、白サビ防止処理は行わないでください。 ● 研磨紙P180～240を用いて目荒しを行ってください。								
	下塗り～ 上塗り	下塗り以降の仕様は、準屋外・屋外防水それぞれの仕様例に準じて施工する。								

- ※ 1. 屋内仕様の場合;素地調整2種相当(主として、動力工具を用いて、さび他は除き、完全に付着している黒皮(塗膜)は残す)。
 ※ 2. ★ S K タイカコート下塗材の希釈率は、主剤100に対してスプレー塗り時で「10～30」、刷毛・ローラー塗り時で「0～20」となります。
 ※ 3. ★ S K タイカコート下塗材は、現場施工において、下地調整後、同一材料を施工するため、工程間間隔時間は30日を超過しても問題ありません。また、準屋外、屋外防水仕様の場合、「工場施工」の下塗り②を省略することが可能です。
 ※ 4. 主材の膜厚は鋼材のサイズにより異なります。このため、所要量、塗回数は現場毎に決定されます。
 ※ 5. ★ S K タイカコート主材 E X の同一工程内の工程内間隔時間は4時間以上となります。また、1日の最大乾燥膜厚は1.0mmまでとし、翌日の塗装までの工程内間隔時間は16時間以上です。
 ※ 6. ★ S K タイカコート主材 E X は上塗材を塗装するまで雨水等がかからないようにしてください。主材は溶剤形であるため、上塗材施工までに十分、乾燥養生する必要があります。**気温条件ならびに主材膜厚における主材の養生時間は下の表を参考にしてください。**なお、主材の乾燥の目安としては、膜厚測定の際に電磁式膜厚計のプロープ跡が極端につかなくなる程度です。
 ※ 7. 上塗りにはこの他、ポリウレタン樹脂系の★ S K タイカコート上塗材 U、シリコン樹脂系の★ S K タイカコート上塗材 S i、ふっ素樹脂系の★ S K タイカコート上塗材 F を使用することができます。
 ※ 8. 準屋外、屋外防水仕様の場合;原則、素地調整1種 B 相当 ISO Sa2 1/2 (プラスト法により、さび、黒皮をほぼ完全に除去する)。
 ※ 9. ★ S K # 8000 プライマーは主剤に硬化剤を規定量加え、攪拌しながら亜鉛末を少量ずつ加え、均一になるまで十分に攪拌してください。その後、シンナーを添加し、更に攪拌してください。調合後、80～100メッシュのふるいでろ過してからご使用ください。なお、攪拌は、電動ミキサーなどで行い、使用中も攪拌を続けてください。
 ※ 10. ★ S K # 8000 プライマーの希釈率は、主剤100に対してスプレー塗り時で「125～150」、刷毛・ローラー塗り時で「100～125」となります(主剤・硬化剤・亜鉛末の混合物100に対してスプレー塗り時で「20～24」、刷毛・ローラー塗り時で「16～20」となります)。
 ※ 11. 上塗りにはこの他、シリコン樹脂系の★ S K タイカコート上塗材 S i、ふっ素樹脂系の★ S K タイカコート上塗材 F を使用することができます。
 ※ 12. 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。
 ● 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温5℃以下、湿度85%以上の施工は原則的に行いません。気温5℃以下で施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により、雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。夏期・冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを必要とします。詳しくは別途施工要領書に記載しております。
 ● 施工中の雨養生は必要です。
 ● 他の部材との取り扱い部は、雨水の浸入を防ぐため、シール処理を行ってください。なお、詳細については、P23～24をご参照ください。

■ 主材厚み、温度別養生期間表

温度	区分	主材厚み別養生期間 (mm)							
		1mm以下	2mm以下	3mm以下		4mm以下		4.5mm以下	
5℃	屋内の場合			7日間以上	—	10日間以上	—	12日間以上	—
	準屋外、 屋外防水の場合	3日間以上	5日間以上	7日間以上	・主材後、中塗材まで:5日間以上 ・中塗り後、次工程まで:2日間以上	10日間以上	・主材後、中塗材まで:5日間以上 ・中塗り後、次工程まで:5日間以上	12日間以上	・主材後、中塗材まで:5日間以上 ・中塗り後、次工程まで:7日間以上
15℃	屋内の場合			5日間以上	—	7日間以上	—	9日間以上	—
	屋内、準屋外、 屋外防水の場合	2日間以上	4日間以上	5日間以上	・主材後、中塗材まで:3日間以上 ・中塗り後、次工程まで:2日間以上	7日間以上	・主材後、中塗材まで:5日間以上 ・中塗り後、次工程まで:2日間以上	9日間以上	・主材後、中塗材まで:5日間以上 ・中塗り後、次工程まで:4日間以上
25℃	屋内、準屋外、 屋外防水の場合	2日間以上	2日間以上	3日間以上		4日間以上		5日間以上	

材料構成

分類	材料名	組成等	荷 姿	ホルムアルデヒド 放散等級	消防法による 危険物表示	危険 等級	JIS規格
下塗材	★SK #8000プライマー	有機ジメチルシリコンプライマー	15kgセット／主剤2.4kg缶・硬化剤0.6kg缶、垂れ末12kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	K 5552 2種
	★SK #8000プライマーシンナー	SK#8000プライマー専用シンナー	16ℓ石油缶	—	第四類第一石油類	Ⅱ	—
	★SKタイカコート下塗材	変性エポキシ樹脂系	18kgセット／主剤14.4kg石油缶・硬化剤3.6kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	K 5551 A種・B種
	★EHシンナー	下塗材・中塗材用シンナー	4kgセット／主剤3.2kg缶・硬化剤0.8kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	K 5551 A種・B種
主材	★SKタイカコート主材EX	耐火塗料	20kg石油缶	—	第四類第二石油類	Ⅲ	—
	★SKタイカコート主材シンナー	主材用シンナー	16ℓ石油缶	—	第四類第二石油類	Ⅲ	—
中塗材	★SKタイカコート中塗材	変性エポキシ樹脂系	20kgセット／主剤17kg石油缶・硬化剤3kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
			4kgセット／主剤3.4kg缶・硬化剤0.6kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
トップシーラー	水性ミラクスシーラーエコホワイト	特殊変性カチオン樹脂	15kg石油缶	F☆☆☆☆	—	—	K 5663
防水材	レナエクセレントローラー用主材	アクリルゴムエマルジョン	18kg石油缶	F☆☆☆☆	—	—	—
上塗材	★SKタイカコート上塗材U	弱溶剤ポリウレタン樹脂系	16kgセット／主剤13.5kg石油缶・硬化剤2.5kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
			4.27kgセット／主剤3.6kg缶・硬化剤0.67kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
	★SKタイカコート上塗材Si	弱溶剤シリコン樹脂系	16kgセット／主剤13.5kg石油缶・硬化剤2.5kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
			4.27kgセット／主剤3.6kg缶・硬化剤0.67kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
	★SKタイカコート上塗材F	弱溶剤ふっ素樹脂系	16kgセット／主剤13.5kg石油缶・硬化剤2.5kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
			4.27kgセット／主剤3.6kg缶・硬化剤0.67kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
	★SKタイカコートF中塗材	弱溶剤ふっ素樹脂系中塗材	16kgセット／主剤13.5kg石油缶・硬化剤2.5kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
			4.27kgセット／主剤3.6kg缶・硬化剤0.67kg缶	F☆☆☆☆	第四類第二石油類	Ⅲ	—
	★塗料用シンナーA	希釈用シンナー	16ℓ石油缶	—	第四類第二石油類	Ⅲ	—
	水性エコファイン	水性反応硬化型アクリル樹脂系	16kg石油缶、4kg缶	F☆☆☆☆	—	—	(K 5660 艶有り、K 5663 艶消し)

●危険情報と安全対策

製品の取り扱いには、それぞれの安全データシート(SDS)に従ってください。特に★印のついている製品は溶剤系のため、下記の点に注意してください。

- 1) 引火性の液体のため、火気厳禁です。特に屋内仕様では、換気や通風が不十分になり、溶剤蒸気が滞留しやすいため、ご注意ください。
- 2) 有機溶剤中毒の恐れがあるため換気に注意し、防毒マスクまたは送気マスクを使用するなどの安全対策を行ってください。
- 3) 屋外環境においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

※ 屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

●施工後の注意

本製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

厚生労働省が「室内濃度指針値」を定めた化学物質については、当該指針値を下回るまで、換気等を実施してください。

施工部位や室内環境によっては、「室内濃度指針値」を下回るまでに長期間を要する可能性があります。

適用上塗材一覧

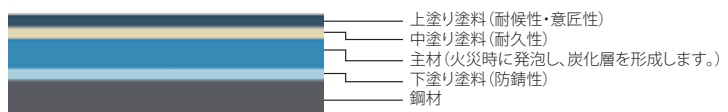
種 類	製品名	艶の種類	適 用
アクリル樹脂系	水性エコファイン	艶有り、半艶、3分艶、艶消し	屋 内
ポリウレタン樹脂系	SKタイカコート上塗材U	艶有り、5分艶、3分艶	屋内、準屋外、屋外防水
シリコン樹脂系	SKタイカコート上塗材Si	艶有り、5分艶、3分艶	屋内、準屋外、屋外防水
ふっ素樹脂系	SKタイカコート上塗材F*	艶有り、5分艶、3分艶	屋内、準屋外、屋外防水

* SKタイカコートF中塗材／SKタイカコート上塗材Fの仕様となります。 注) 他の上塗材(シート建材等)につきましては、弊社担当者にお問い合わせください。

取扱説明書（屋外環境）

1. 使用上の注意点

本製品は、下塗り塗料(さび止め塗料)、主材、中塗り塗料および上塗り塗料の複層で構成されています。主材は、中塗り塗料、上塗り塗料により保護されることで、その性能は維持されます。しかしながら、上塗り塗料の塗膜劣化や傷等により、雨水が主材へ浸入した場合、主材自体の割れ、浮き、剥離等の予測不可能な塗膜劣化が生じ、耐火性能が低下します。これを防止するため、年次点検による上塗り塗料の塗膜劣化を早期に発見して頂くとともに、傷等がある場合も、補修又は塗増しを実施してください。



[本製品を施工した塗膜面には、傷等を付けしないでください(塗膜面への金物の設置等)。雨水が浸入することで、主材が剥離する可能性があります。]

※屋外防水仕様の場合は、シーラーと防水材が入ります。

2. 維持管理

本製品は、建築物が供用される期間において耐火性能を維持する必要があります。このため、お引渡し後は、建物所有者様が定期的な自主検査をして頂き、傷や上塗り塗料の塗膜劣化の早期発見と共に、適切な補修または塗増し等を実施してください。推奨する点検の概要を下表に示します。

点検種類	方 法	点検周期
年次点検	目視	1年毎に1回
臨時点検	目視・触診	年次点検で異常が認められた時

劣化には以下の種類がありますので、参考になしてください。

項 目	内 容
白亜化	塗膜表面が離脱しやすい粉状になる現象
割れ	塗膜にさげ目ができる現象
膨れ	塗膜がガスまたは液体を含んでいる状態
剥がれ	塗膜が付着力を失って被塗面から離れる現象

3. 期待耐用年数

上塗材の種類により、期待耐用年数が異なります。本サイクルでの塗増しを推奨します。

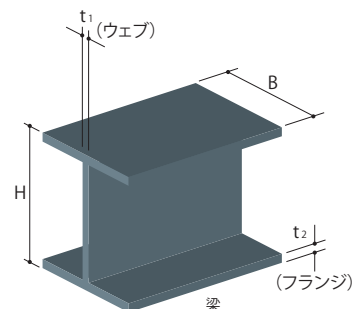
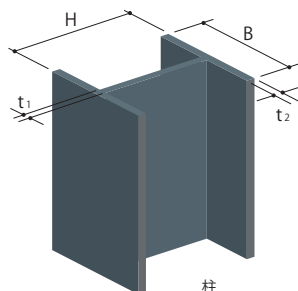
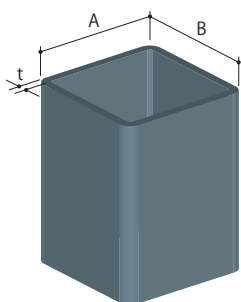
上塗材	準外部の塗増し時期	完全外部の塗増し時期	備 考
ポリウレタン樹脂系	10～12年程度	5～7年程度	地域、立地条件、施工部位、方角等により異なりますので、参考値としてお考えください。
シリコン樹脂系	12～15年程度	6～8年程度	
ふっ素樹脂系	15～20年程度	8～10年程度	

※準屋外仕様の場合は、期待耐用年数が異なる場合があります。詳細については、別途お問い合わせください。

※期待耐用年数の塗増し時期は、保証内容を示すものではありません。

鋼材寸法と認定膜厚表

SKタイカコート 柱・梁1時間耐火 (代表例)



[角形鋼管]

注) 赤字の数字は、被覆厚(mm)を示します。
注) 下表中“—”印は適用範囲外を示します。

規格	鋼材寸法		t (厚さ mm)											
	A	B	1.6	2.3	3.2	4.0	4.2	4.5	5.0	6.0	8.0	9.0	12.0	
JIS G 3466-1988	40	40	—	—										
	50	50	—	—	—									
	60	60	—	—	—									
	75	75	—	—	—			4.50						
	80	80		—	—			4.50						
	90	90		—	—									
	100	100		—	—	—		4.25		3.25		2.75	2.25	
	125	125			—			4.25	3.75	3.25		2.75	2.25	
	150	150						4.25	3.75	3.25		2.50		
	175	175						4.25	3.75	3.25				
	200	200						4.00		3.25	2.75	2.50	2.00	
	250	250							3.50	3.25	2.75	2.50	2.00	
	300	300						4.00		3.25		2.50*	2.00	
	350	350										2.50*	2.00	
	50	20	—	—										
	50	30	—	—										
	60	30	—	—	—									
	75	20	—	—										
	75	45	—	—	—									
	80	40	—	—	—									
	90	45		—	—									
	100	20	—	—										
	100	40	—	—			—							
	100	50	—	—	—			4.50						
	125	40	—	—										
	125	75	—	—	—	—		4.00		3.25				
	150	75			—									
	150	80						4.25	3.75	3.25				
	150	100			—			4.25		3.25			2.75	
	200	100						4.25		3.25			2.50	
	200	150						4.25		3.25			2.50	
	250	150						3.25		2.50			2.50	
	300	200								3.25			2.50	2.00
	350	150								3.25			2.50	2.00
	400	200								3.25			2.50	2.00

規格	鋼材寸法		t(厚さ mm)								
	A	B	6.0	8.0	9.0	12.0	14.0	16.0	19.0	22.0	
BCR	200	200	3.25	2.75	2.50	2.25	—	—	—	—	—
	250	250	3.25	2.75	2.50	2.00	1.75	1.50	—	—	—
	300	300	3.25	2.75	2.50*	2.00	1.75	1.50	1.00	—	—
	350	350	—	—	2.50*	2.00	1.75	1.50	1.00	1.00	—
	400	400	—	—	2.50*	2.00	1.75	1.50	1.00	1.00	—
	450	450	—	—	2.50*	2.00	1.75	1.25	1.00	1.00	—
BCP	500	500	—	—	—	2.00	1.75	1.25	1.00	1.00	—

規格	鋼材寸法		t(厚さ mm)								
	A	B	16.0	19.0	22.0	25.0	28.0	32.0	36.0	38.0	40.0
BCP	400	400	—	1.00	1.00	0.75	—	—	—	—	—
	450	450	—	1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	—	—	—
	500	500	1.50	1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	—	—	—
	550	550	1.25	1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	600	600	1.25	1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	650	650	1.25	1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	700	700	1.25	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	750	750	—	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	800	800	—	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	850	850	—	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	900	900	—	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	950	950	—	—	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	1000	1000	—	—	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75

[H形鋼 (JIS G 3192 - 2000)]

鋼材寸法		t(厚さ mm)		被覆厚(mm)	
H	B	t1	t2	柱	梁
100	50	5	7	2.50	2.25
100	100	6	8	2.25	1.75
125	60	6	8	2.25	1.75
125	125	6.5	9	2.25	1.75
150	75	5	7	2.50	2.25
148	100	6	9	2.25	1.75
150	150	7	10	2.00	1.75
175	90	5	8	2.50	2.00
175	175	7.5	11	2.00	1.50
198	99	4.5	7	2.50	2.50
200	100	5.5	8	2.50	1.75
194	150	6	9	2.25	1.75
200	200	8	12	1.75	1.50
200	204	12	12	1.75	1.50
248	124	5	8	2.50	2.00
250	125	6	9	2.25	1.75
244	175	7	11	2.00	1.50
250	250	9	14	1.50	1.50
250	255	14	14	1.50	1.50
298	149	5.5	8	2.25	1.75
300	150	6.5	9	2.25	1.75
294	200	8	12	1.75	1.50
294	302	12	12	1.75	1.50
300	300	10	15	1.50	1.50
300	305	15	15	1.25	1.25
346	174	6	9	2.25	1.75
350	175	7	11	2.00	1.75
340	250	9	14	1.75	1.50
344	348	10	16	1.50	1.50
350	350	12	19	1.25	1.25
396	199	7	11	2.00	1.75
400	200	8	13	1.75	1.50
390	300	10	16	1.50	1.50
388	402	15	15	1.25	1.25
394	398	11	18	1.25	1.25
400	400	13	21	1.00	1.25
400	408	21	21	0.87	1.25
414	405	18	28	0.87	1.00
428	407	20	35	0.87	1.00
458	417	30	50	0.87	1.00
498	432	45	70	0.87	1.00
446	199	8	12	2.00	1.50
450	200	9	14	1.75	1.50
440	300	11	18	1.25	1.25
496	199	9	14	1.75	1.50
500	200	10	16	1.50	1.50
506	201	11	19	1.50	1.50
482	300	11	15	1.50	1.50
488	300	11	15	1.75	1.50
596	199	10	15	1.75	1.50
600	200	11	17	1.50	1.50
606	201	12	20	1.25	1.50
582	300	12	17	1.50	1.50
588	300	12	20	1.25	1.25
594	302	14	23	1.00	1.25
692	300	13	20	1.25	1.25
700	300	13	24	1.00	1.25
792	300	14	22	1.00	1.25
800	300	14	26	1.00	1.25
890	299	15	23	1.00	1.25
900	300	16	28	0.87	1.25
912	302	18	34	0.87	1.25

注1) H:高さ B:幅 t1:ウェブ厚さ t2:フランジ厚さ (単位:mm)

注2) A:辺の長さ B:辺の長さ t:厚さ(単位:mm)

注3) BCR、BCP: (社) 日本鉄鋼連盟(旧:鉄鋼倶楽部) 規格

* 認定番号FP060CN-0047を適用することで2.00mm厚となります。

※上記以外のサイズの場合は、別途お問い合わせください。

SKタイカコート 柱1時間耐火（代表例）

[丸形鋼管①]

注) 赤字の数字は、被覆厚 (mm) を示します。
注) 下表中“—”印は適用範囲外を示します。

[illegible]

評定書CBLPF001-08号「発泡性耐火塗料の鋼管柱の耐火構造認定について」の適用範囲の拡大について平成22年3月31日 財団法人ベターリビング
※上記以外のサイズの場合は、別途お問い合わせください。

SKタイカコート 柱1時間耐火 (代表例)

[丸形鋼管②]

注) 赤字の数字は、被覆厚 (mm) を示します。

規格 鋼材寸法	一般構造用炭素鋼鋼管 (JISG3444)・建築構造用炭素鋼鋼管 (JISG3475)・一般構造用圧延鋼材 (JISG3101)・溶接構造用圧延鋼材 (JISG3106)・建築構造用圧延鋼材 (JISG3136)																																	
t (厚さmm)	10.3	11.0	11.1	12.0	12.7	14.0	14.3	15.1	16.0	17.4	18.0	19.0	20.0	22.0	24.0	25.0	28.0	32.0	36.0	40.0	45.0	50.0	55.0	60.0	65.0	70.0	72.0	75.0	80.0	85.0	90.0	95.0	100.0	
21.7																																		
27.2																																		
34.0																																		
42.7																																		
48.6																																		
60.0																																		
60.5																																		
69.1																																		
76.3																																		
89.1																																		
101.6																																		
114.3																																		
139.8		2.25		2.00																														
150.0									1.50																									
165.2		2.25																																
175.0									1.50																									
190.7				2.00							1.00		1.00		0.75																			
216.3				2.00					1.50				1.00		0.75																			
225.0															0.75																			
227.0															0.75																			
250.0														1.00																				
267.4				2.00	1.75			1.50	1.25				1.00																					
298.5									1.25				1.00																					
318.5	2.25			2.00	1.75		1.50		1.00							0.75																		
323.8									1.25							0.75	0.75	0.75																
350.0									1.25							0.75	0.75	0.75																
355.6			2.00	2.00	1.75		1.50	1.25		1.00				0.75		0.75	0.75	0.75																
400.0														0.75		0.75	0.75	0.75																
405.0																			0.75															
406.4			2.00	1.75	1.50			1.25		1.00		0.75				0.75	0.75		0.75															
450.0																0.75	0.75																	
457.2			2.00	1.75	1.50			1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75												
500.0			2.00		1.50			1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75												
508.0			2.00	1.75	1.50			1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75												
550.0			2.00					1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75											
558.8			2.00	1.75	1.50			1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75										
600.0			2.00		1.50			1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75									
609.6			2.00	1.75	1.50			1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75								
650.0			2.00					1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75								
660.4			2.00		1.50			1.25		1.00	1.00		0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75			0.75					
700.0			2.00		1.50			1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75							
711.2			2.00	1.75	1.50			1.25		1.00	1.00		0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75			0.75				
750.0								1.25		1.00				0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75			0.75				
762.0					1.75			1.25		1.00	1.00		0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75			
800.0								1.25		1.00	1.00		0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75			
812.8				2.00	1.75	1.50		1.25		1.00	1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75			
850.0								1.25		1.00			0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75	0.75		
863.6								1.25		1.00	1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75	0.75	0.75	
900.0										1.00			0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75	0.75		
914.4				2.00	1.75	1.50		1.25		1.00	1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75	0.75	0.75	
950.0										1.00			0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75	0.75	0.75	
965.2										1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
1000.0										1.00		0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
1016.0				2.00	1.75	1.50		1.25		1.00	1.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75		0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
1219.2					1.75			1.25														</												

評定書CBLPF001-08号 「発泡性耐火塗料の鋼管柱の耐火構造認定についての適用範囲の拡大について」平成22年3月31日 財団法人ベターリビング

※上記以外のサイズの場合は、別途お問い合わせください。

SKタイカコート 柱2時間耐火

[丸形鋼管]

注) 赤字の数字は、被覆厚 (mm) を示します。
注) 下表中“-”印は適用範囲外を示します。

規格 鋼材寸法	一般構造用炭素鋼鋼管 (JISG3444)・建築構造用炭素鋼鋼管 (JISG3475)・一般構造用圧延鋼材 (JISG3101)・溶接構造用圧延鋼材 (JISG3106)・建築構造用圧延鋼材 (JISG3136)・溶接構造用遠心力鋳鋼管 (JISG5201)																													
t (厚さmm)	9.0	9.3	9.5	9.7	10.0	10.3	10.5	10.7	11.0	11.1	11.4	12.0	12.7	14.0	14.3	15.1	16.0	17.4	18.0	19.0	20.0	22.0	23.0	23.1	23.4	24.0	25.0	25.4	26.3	26

北海道

札幌支店 ☎011-784-4000
旭川営業所 ☎0166-51-8094

東北

仙台支店 ☎022-259-2431
盛岡営業所 ☎019-654-8380
青森営業所 ☎017-762-3855
郡山営業所 ☎024-962-7673
秋田出張所 ☎018-883-0230

関東

東京支店 ☎03-3204-6601
東京耐火断熱営業所 ☎03-3204-6603
東京営業所 ☎03-3204-6601
三多摩営業所 ☎042-564-5806
水戸営業所 ☎029-251-6515
新潟営業所 ☎025-285-6551
城東営業所 ☎03-3877-7770
静岡営業所 ☎054-284-1877
横浜支店 ☎045-820-2400
厚木営業所 ☎046-294-3666
千葉支店 ☎043-304-0411

北関東

埼玉支店 ☎048-686-2391
群馬営業所 ☎027-280-5350
宇都宮営業所 ☎028-657-5555

北信

北陸支店 ☎076-266-1041
長野営業所 ☎026-239-6210
松本営業所 ☎0263-24-2677

中部

名古屋支店 ☎052-561-7712
名古屋営業所 ☎052-561-7712
浜松営業所 ☎053-462-7021
三河営業所 ☎0564-28-1614
岐阜営業所 ☎058-273-1981
三重営業所 ☎059-254-3777

関西

大阪支店 ☎072-621-7721
大阪営業所 ☎072-621-7722
京都支店 ☎075-646-3967
南大阪営業所 ☎072-253-1910
神戸支店 ☎078-671-0451
姫路営業所 ☎079-281-5311

中国

広島支店 ☎082-943-5043
岡山営業所 ☎086-242-5520
山口営業所 ☎083-924-7575

四国

高松支店 ☎087-865-5411
松山営業所 ☎089-958-3780

九州・沖縄

福岡支店 ☎092-629-3427
北九州営業所 ☎093-621-8505
大分営業所 ☎097-555-9081
長崎営業所 ☎095-887-0871
熊本営業所 ☎096-344-5650
宮崎出張所 ☎0985-61-7779
鹿児島営業所 ☎099-284-5321
沖縄営業所 ☎098-862-5041

